

俳人協会静岡県支部 令和二年度俳句大会入選作品

上田日差し選（特別選者）

特選 藻の花に水は流れを緩めたり

渡辺 訓子

秀逸 筍むく音も観音開きかな

藤沼 公子

浮人形くらりと水を脱ぎにけり

遠野ちよこ

庭下駄の火照る八月十五日

寺田 典子

入選 道の果て桜の果てとなりゆけり

谷戸 陽子

真向へば身は風となる滝こだま

間島あきら

畦道の板橋とんと虫送り

渡井 貞子

ときめきの泡のぶつかるソーダ水

影山 武司

吊橋のここが真ん中若葉風

飯塚みどり

新しき風へ踏み出す茅の輪かな

宮澤 秀子

翡翠や静寂重き昼下がり

広瀬 猪一

深秋や木魚の口の中に闇

大石 壮吾

降りしきる雨も潜らせ茅の輪かな

矢野 悦子

七夕竹色の溢れてをりにけり

宮本美紀子

月涼しマリオネットの睡りたる

松尾 久子

虫送り子等の掛け声田へ流れ

三浦 晴子

千枚田田水引く音風の音

樽林 匠子

河岸には名代の餅屋梅雨出水

古橋 成光

廃屋を静めて烏瓜の花

鈴木けい子

渥美絹代特選

燕来るこども一一〇番の家

清野かつ江

磯田なつえ特選

足で足洗つてをりぬ水着の子

大村 泰子

伊藤修愚特選

匂ひ立つ雨の茅の輪をくぐりけり

宮澤 秀子

大竹 征子特選

稲の花維盛塚へ畦伝ひ

渡辺 昌子

甲斐遊糸特選

プレーボールの拳突き上げ雲の峰

亀澤 淑子

影島智子特選

庭下駄の火照る八月十五日

寺田 典子

加藤やえ子特選

ナウマン象遊びし川に鮎を釣る

鈴木 慶子

久留米脩一特選

星を見る寝袋に顔一つづつ

村上 尚子

月花ふみ子特選

本殿を輪に納めたる茅の輪かな

佐野眞砂代

三枝千鶴子特選

階段をヒール鳴らして夏来る

飯塚みどり

笹瀬節子特選

しづかなる魁夷の青や鑑真忌

堂本 房子

佐藤陸前子特選

何処へもゆける長元坊の空

杓谷 純

杓谷純特選

昭和の日手漉きの和紙の二連鶴

八橋和子

鈴木齊夫特選

一匹となりし金魚の懐きやう

鈴木 慶子

関森勝夫特選

白扇を魔除のやうに使ひけり

渡邊とし江

田中晶代特選

薪で沸かす湯の肌ざはり星涼し

桶田美代子

土屋みさ子特選

燕来ることも一一〇番の家

清野かつ江

堤信彦特選

夕焼を背に車掌来る日本海

白井宜子

中川正男特選

短夜のラジオ呟く巴里は雨

横田じゅんこ

吹井紫乃特選

浮人形くらりと水を脱ぎにけり

遠野ちよこ

間島あきら特選

たんぽぽや誰にも触れぬ手のほてり

高島昭子

三浦晴子特選

虹立つや兄となることまだ知らず

宮本美紀子

水野征男特選

入学の子に初めての定期券

高島昭子

柳田訓子特選

参観日遅れて汗の母が来る

大石壮吾

山口昭利特選

工場の鉄の匂ひや蚊喰鳥

高橋とし子

山崎慈昭特選

パプリカの赤青黄いろ小鳥来る

村松ヒサ子

横田じゅんこ特選

吊つて売る浮輪ときをり鈴の鳴る

渥美絹代

吉住達也特選

地球儀の自転一秒小鳥来る

小林美成子

和久田隆子特選

光琳の筆を借りたる燕子花

梅原清音

渡井恵子特選

手のひらに船のせてみる露台かな

鈴木百々絵

高得点賞

一六点 燕来ることも一一〇番の家

清野かつ江

一四点 浮人形くらりと水を脱ぎにけり

遠野ちよこ

一二点 参観日遅れて汗の母が来る

大石壮吾

一〇点 リハビリの靴の片減りカンナ咲く

大澄滋世